

県女第一期生より、皆実高校生に至る

123年の歴史に連なる者。

また今後、この同じ流れに連なる者、

手をつなぎ足音高く歩もう。

足音高く声を揃えて元気に歩もう。

我等は、皆実有朋会会員（39,307人）である。

歩もう、歩もう力強く！



No.87 2024 (令和6) .12. 10

生徒自ら選択できる制服



皆実高校ホームページより

多様な価値観への対応

生徒自らが制服の組合せを選択できます

寒暑への対応

(寒さ対策)

女子スラックスが採用されました

(暑さ対策)

ポロシャツとハーフパンツ（県内初）を追加採用しました

さて、120年を超える皆実高校のシンボルの一つに「制服」があります。社会では性別を超えた価値観が浸透する中、改めて皆実高校の制服の在り方について昨年度から議論を重ね、結果、現行を維持しつつ選択肢を増やす方向で整理しました。学生服及びセーラー服に込められた皆実高校のアイデンティティと新しい皆実高校らしさを加えたダイバーシティへの挑戦に本校への信頼と愛着が益々深まることを願っています。

オープンスクール、大運動会や修学旅行などの大きな学校行事も無事終了し、いよいよ3年生は進路実現に向けた本格モードに切り替わってきました。廊下に並ぶ学習机は自習する3年生で満席となる一方、グラウンドや体育館は冬の大会等に向けた1、2年生の高らかな声が響いています。



Diversity (多様性) への階段
— 伝統と革新が共存する皆実高校 —
校長 吉村 薫

昨年の第86号でも言及した「酷暑」でしたが、今年はそれを更に上回る暑さに対する熱中症対策に迫られた夏でした。そのような残暑厳しい折、中学生対象の

制服の変遷

県女・有朋・皆実

- | | | |
|-------|----------------|---------------------------|
| (写真①) | 1906 (明治 39) 年 | 木綿の筒袖に袴と靴というスタイル |
| (写真②) | 1913 (大正 2) 年 | セーラー服風の水色木綿の体操服 |
| (写真③) | 1920 (大正 9) 年 | 全国で2番目にセーラー服を制服として制定 |
| (写真④) | 大正末期 | 一時、広衿ボックス型の制服となる |
| (写真⑤) | 1927 (昭和 2) 年 | 再びセーラー服に。帽子が評判 |
| (写真⑥) | 1933 (昭和 8) 年 | 一部改訂 |
| (写真⑦) | 1948 (昭和 23) 年 | 有朋高校制服 |
| (写真⑧) | 1952 (昭和 27) 年 | 皆実高校制服 (昭和 24 年より男女共学となる) |
| (写真⑨) | 1963 (昭和 38) 年 | 女子冬服にハーフコート |
| (写真⑩) | 1964 (昭和 39) 年 | 女子冬服にトッパーコート |

